

第25回定期大会アピール

第25回定期大会は、コロナ再拡大の深刻な事態の下、オンライン会議で実施せざるを得なかった。大会成功のために心を一つに奮闘された全国の仲間みなさんに心から敬意を表す。

新型コロナウイルスと変異株の急拡大は、戦後国際政治の主流となってきた新自由主義にもとづく「経済効率」を優先し社会保障・社会福祉を削減する政策の誤りを世界的規模で明らかにしている。

各国で、医療提供体制の脆弱さのために重症者、死者が増大した。世界の到達した医学と科学の知見をもってすれば解決できるはずである。阻んでいるのは、「経済効率」の呪縛から逃れられない政治である。多くの国が、そのことに気づき始めている。

私たちの日本も同様である。現在の深刻な事態は、菅政権の無為無策と「Go To」事業を続けてきた結果であり、“菅政権による人災”である。専門家集団の知見を尊重せず、「経済効率」を優先する優柔不断さがここまで事態を深刻にした。全国の急拡大と死者の増大の最大の原因は、保健所、医療体制を極度に削減した愚策の結果ではないか。

この危機に乗じて、菅政権は「火事場泥棒」的に数々の悪法の成立を図った。病床削減法案と高齢者医療費2倍化法案は強行採決された。だが、入管法改定案は廃案にした。国会最終盤のいま、政権と国民のたたかいは、つばぜり合いの状態にある。国民投票法案、土地利用規制法案等の成立を阻むために全力をあげよう。国民の命を守ることを最優先にすべきこの時に、オリンピック開催にしがみつき、200人規模の医師、500人規模の看護師のオリンピック派遣を要請している。狂気の沙汰である。医療崩壊地域のマンパワー不足の悲鳴が聞こえないのか。私たちはこの横暴を絶対に許さない。オリンピックは即時中止すべきである。

この悪政は変えられる。長野、北海道の衆院補選、広島の参院再選挙で野党共闘候補が勝利した。これをステップにして東京都議選に勝ち抜き、衆院選挙に向けた野党共闘をさらに前進させ、政権交代を実現しようではないか。

私たちは、全国11万人の仲間とともに、激動の時代を誇り高くたたかい続けてきた。

国民と組合員の命を守りながら、コロナ危機のもとでも前進できる活動をいかにつくりだしていくか。大会では、コロナ禍の下で困難な状況と苦闘し前進した新たな経験も多く語られた。

高齢者世代が他の世代より優れている特質は、長年蓄積してきた豊富な知恵と経験である。

裁判運動を揺るがず前進させる、最低保障年金制度第3次提言を広範な国民の中に普及する。組織的にも、停滞から前進へ、そして前進から飛躍へ。

私たちのやり遂げるべき課題ははっきりしている。

いま、全国の組合員の知恵と力を総動員すべき時である。

第25回定期大会は、全国の仲間みなさんに「命と健康」を守りつつ、あらゆる可能性をくみつくし、ともに前進することを心からよびかける。

2021年6月10日

全日本年金者組合第25回定期大会